

各 位

上場会社名	高砂鐵工株式会社
代表者	代表取締役社長 大植 啓一
(コード番号)	5458)
問合せ先責任者	取締役経理部長 畑田 正樹
(TEL)	03-5399-8111)

## 業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成26年5月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。  
あわせて、平成26年5月12日に公表した当期の配当予想も下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成27年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,900	170	115	95	3.16
今回修正予想(B)	4,995	298	226	181	6.03
増減額(B-A)	95	128	111	86	
増減率(%)	1.9	75.3	96.5	90.5	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年3月期第2四半期)	4,932	107	39	233	7.76

平成27年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	360	250	210	6.99
今回修正予想(B)	10,000	490	360	300	9.99
増減額(B-A)	0	130	110	90	
増減率(%)	0.0	36.1	44.0	42.9	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	10,210	314	178	317	10.57

平成27年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,000	130	80	75	2.50
今回修正予想(B)	3,263	231	164	143	4.76
増減額(B-A)	263	101	84	68	
増減率(%)	8.8	77.7	105.0	90.7	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年3月期第2四半期)	2,849	97	55	△312	△10.39

平成27年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,100	300	200	180	5.99
今回修正予想(B)	6,400	400	285	250	8.33
増減額(B-A)	300	100	85	70	
増減率(%)	4.9	33.3	42.5	38.9	
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	6,046	286	180	△241	△8.05

## 修正の理由

第2四半期累計期間の業績につきましては、当初、消費税増税等の影響を懸念していたものの、主力のみがき帯鋼では主要需要先の自動車部品向けが、またステンレスにおいてもエンボス製品等が、順調に受注を伸ばしたのに加えて、継続的なコスト削減も寄与し、前回業績予想を上回る水準で着地する見込みとなりましたので、連結業績・個別業績ともに、上方修正いたします。

また、通期業績予想につきましても、第2四半期累計期間の業績の状況を踏まえ、修正いたします。なお、下半期以降は、主要需要先である自動車業界の国内・海外の生産・販売動向や原材料及び製品価格の交渉進捗等を慎重に見極める必要があるため、前回業績予想並みを想定しております。

(業績予想に関する留意事項)

本資料における予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

## ● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想 (平成27年5月12日発表)	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —
今回修正予想	—	0.00	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
前期実績 (平成26年3月期)	—	0.00	—	0.00	0.00

## 修正の理由

当社は安定的な経営基盤の確保に努めるとともに、利益状況に対応した配当を行うことを基本として株主の皆様への利益還元を図っていく方針です。

これまで未定としておりました平成27年3月期期末配当予想につきましては、現状の経営成績・財政状態のもとで最優先に取り組むべき課題は、自己資本の充実等による財務体質の強化であると判断し、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

株主の皆様にはお詫びを申し上げますとともに、早期の復配に向け、着実に経営努力を重ねてまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上